

漁況情報 No.10

平成 18 年 8 月 11 日発行

岩手県水産技術センター 漁業資源部

Tel : 0193-26-7915、Fax : 0193-26-7920、E-mail : CE0012@pref.iwate.jp

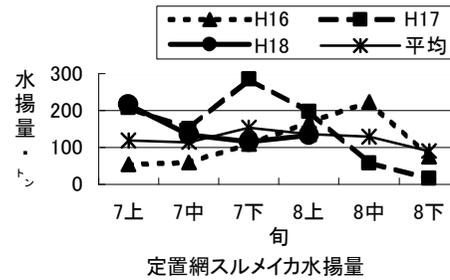
* 本報は当センターホームページ (<http://www.pref.iwate.jp/hp5507/>) に掲載しています。

<< トピックス >>

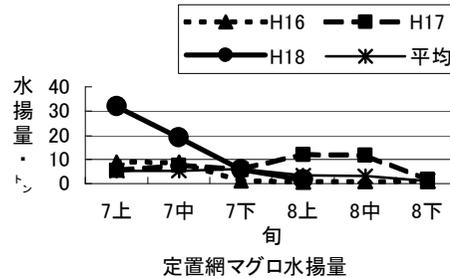
スルメイカ(いか釣り)は低調に推移しています。
クロマグロ(定置網)の水揚げは減少しました。
カツオ(かつお一本釣り)の水揚げ量は徐々に増加しています。

1. 水揚げ状況

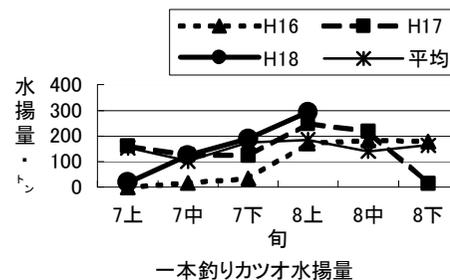
(1) スルメイカ(いか釣り)は宮古、釜石、大船渡を中心に水揚げがありました。8月上旬の水揚げ量は59トン(前年の24%)、年累計は305トン(前年の74%)でした。また、8月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は136トンで、旬水揚げ量はその98%でした。



(2) クロマグロ(定置網)は、山田、釜石、大船渡を中心に水揚げがありました。8月上旬の水揚げ量は1.7トン(前年の14%)、年累計は126トン(前年の1.6倍)でした。また、8月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は3.4トンで旬水揚げ量はその50%でした。



(3) カツオ(かつお一本釣り)は大船渡で水揚げがありました。8月上旬の水揚げ量は293トン(前年の118%)、年累計は626トン(前年の72%)でした。また、8月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は286トンで、旬水揚げはその1.6倍でした。



* 水揚げ状況は主要6港(久慈、宮古、山田、大槌、釜石、大船渡)の集計です。

2. 調査結果、その他の情報

(1) サバ類精密測定結果

8月上旬に水揚げされたサバ類(釜石魚市場、定置網)の精密測定を行いました。体長は30~31cmと33cmが主体であり、7月上旬よりも1~2cm程度小さくなっていました(図1)。本県で水揚げされるサバ類には、マサバとゴマサバがありますが、両種は体長(尾叉長、図2、A)と背びれの長さ(第1背びれ第1~第9棘基底長、図2、B)の比で判別できます(詳細は漁況情報No.7参照)。この判別方法によると、今回測定したサバの約8割がゴマサバ(判別指数12未満)であることがわかりました(図2、サバの図はCollette and Nauen(1983)を転載)。7月上旬はマサバ主体であった漁獲が、8月上旬ではゴマサバ主体となっています。ゴマサバの多くは体長が30~31cmであり、マサバの方がやや大きい傾向が見られました(図2)。

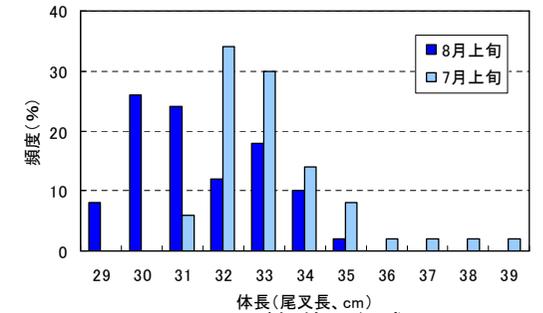


図1 サバ類体長組成

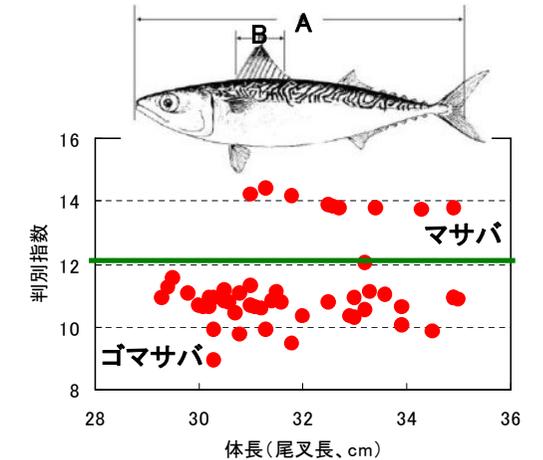


図2 マサバ、ゴマサバ判別指数

(2) 平成18年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報

平成18年8月9日に水産庁及び独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所から、『平成18年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報』が発表になりました。

本報の詳細は水産庁ホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp>)でご覧になれます。

今後の見通し(2006年8月~12月)

【漁況】

- 大型魚の来遊量は昨年を下回るが、中・小型魚を含めた全体の来遊量は昨年と同程度からやや上回る。
- 大型魚が多いものの、昨年より中・小型魚の割合がかなり高くなる。

【海況】

- 親潮の沿岸への差し込みは、平年より南寄り。

